

和歌山県名匠

なか
仲

たもつ
完

■経歴及び業績

大正15年東牟婁郡勝浦町で生まれる。15歳から地元の船会社に見習い工として勤務を始め、今日まで60年あまり、この道一筋に精進している。昭和21年からは船大工職人として各地に出向し、木造船の建造、修理に携わり、昭和30年に仲造船所を設立。

昭和60年、それまで培ってきた技術を活かし、那智勝浦町勝浦八幡神社の權伝馬船2隻を建造し、以後、伝馬船の維持修理を含め、同神社例祭の權伝馬神事を支える。平成5年には補陀洛渡海信仰の渡海船の復元建造を果たし、平成14年には新たに權伝馬船1隻を建造した。

木造船は1隻を建造するのに、約80日から100日かかる。以前は大型マグロ船なども木造であり、10年程前まで木造船はよく建造されていたが、近年はFRP（強化プラスチック）船が普及したため、木造船の需要が減少している。そのため、船大工も減少しており、今では那智勝浦町だけでなく、串本、古座や新宮方面の木造船の建造、修理まで氏が手掛けている。

木造船建造技術を途絶えさせることなく後世へ伝承することが全国的な課題となっている昨今、高齢を顧みず培ってきた木造船建造技術を活かし、熊野地域の諸行事を支えてきた氏の功績は多大である。



職 種：船大工